

号外！ 次は12月！この2人と、あの若手。

第36回 「佐世保かっちえて落語会」 林家正蔵・古今亭菊之丞 それぞれ二席ずつ、たっぷり。

いつだったか、福岡にいる同級生が教えてくれました。「正蔵師匠が NHK のラジオでしゃべりよらしたよ」・・・なんて？・・・「佐世保の会に行くのが楽しみで、佐世保のお客さんや前座の子どもたちが大好きだって」・・・なんて書くと「そがん言うとは芸人特有のヨイショやろ」とベタな佐世保弁で疑う人もいるでしょうが、そういう人はこの『かっちえて落語会』に来たことがなく、正蔵さんの高座をその目で見て、噺（はなし）をその耳で聞いたことのない人でしょうね。嗚呼、もったいない、もったいない。なんて書くと「やぐらしか！なんがもったいなかとや」と喧嘩腰の佐世保弁を返す人もいるでしょうが、そういう人は次の文章を読んでみてください・・・「正蔵師匠の芝浜、とても感動しました。正蔵師匠演じる女房が言う“お前さあん”に込められた深い愛情。凄くチャーミングで今でも耳に残っています。最後には心がぼかぼかと温まるのを感じました。このように最高に贅沢で心豊かになれる落語会を鑑賞出来てとても幸せでした」・・・これは去年12月に正蔵師匠の『芝浜』を聴いたあとで、40代女性が寄せてくれた感想です。なんて書くと・・・「芝浜は知らんぼってん、白浜には感動するばい。いつ行ってもきれかけん」というような、落語のことは何にも知らない人にこそ、ご来場いただきたいですね。なんたって次回は、あの正蔵さんなんですからの“あの”については、次を読んでみてください。

林家正蔵：全国的人気もさることながら、文化庁芸術祭優秀賞なども受賞。その温かい人柄から語られる古典落語は、非常に高く評価されている。落語協会副会長として落語界を支え、今年は落語協会100周年記念事業の実行委員長を務めながら寄席も掛け持ち、ラジオ・テレビにも出演し、非常に多忙でありながらも、「かっちえて」には来てくれるんですよ。有難いですねえ。

で、こんな正蔵さんと、次回一緒に来てくれるのが、古今亭菊之丞師匠。と言われても、落語文化からは遠い佐世保じゃ「そがん落語家知らんばい」と答える人も多いでしょうね。そういう人は次の文章を読んでみてください。2年前に菊之丞さんが初登場したときのお客様の感想です。・・・「今回初めて古今亭菊之丞師匠の噺を聞きました。とても素晴らしいと感じました。

伝統に裏うちされた技とご本人の創意が融合し、大好きになりました。何度でも聞きたい噺家さんですね」（60代男性）・・・「初めて見た菊之丞師匠、大ファンになりました。柔らかい物腰と緻密だけど激しい身振りのギャップが凄かったです。最前列付近のお年寄りが悶絶して笑っていました」（50代教育関係者）・・・そりゃそうですよね。だって、こういう噺家さんなんですから。

古今亭菊之丞：2003年に異例の単独真打昇進を果たした実力派であり、その名の通り風貌は歌舞伎の女形か、大店の若旦那のようであり、今では数少なくなった江戸っ子気質の噺家である。芸術選奨文部科学大臣新人賞などを受賞し、古今亭の正統派落語を受け継ぎながらも、その独特の粋と艶っぽさがある高座は、非常に高く評価されている。

さらに、将来の落語界を支えるひとりになるであろう若き実力派の、この人も・・・。

林家たま平：正蔵師匠の弟子であり、実の息子。回を重ねるたびに、その勢いのある高座に佐世保でもファンが増えていて、落語界初の四代目として、将来を期待されている若き噺家である。

12月も、西の端っこではなかなか鑑賞できないトップクラスの噺家さんたちが来てくれて、佐世保ならではの子どもたちによる“地産地笑”の創作落語があって、内容たっぷりでの料金です（自画自賛かよ！はい、私は自画自賛さんです）。私たちは、皆様の入場料だけで運営していますので・・・「あなたの気持ちはようわかった。落語は詳しうなかばってん、おもしろかごたっけん行ってやるよ」と思って予約してもらえると・・・嬉しいですねえ、これからも続けるために。笑う門には福来る、笑顔の人には幸来る。次回も！あなたと！会場でお会いできることを願っております。

（文責・海老原靖芳）

2024年12月8日(日)

開演午後4時

佐世保コミュニティーセンター5F

指定席 大人：2,500円・小中高生：1,000円

※ 全席指定席となっております。

※チケット販売・問合せ先

佐世保かっちゃんて落語会・実行委員会 事務局

佐世保市干尽町 2-5 観光交流センター2F Soup-Up させぼ内

Tel:0956-32-0888 / Fax:0956-59-8151

営業時間：月～金 9時～18時